

# from TOKYO / Poppin'4

音の名匠たちが紡ぎ出す、ポップで高品質なインスト・ミュージック



BRAVO RECORDS / キング・インターナショナル BRAVO-10012

¥3,300 (税込) 2022年4月22日リリース

塚山エリコを中心に、土方隆行、コモブチキイチロウ、渡嘉敷祐一という日本の音楽シーンを支え続けてきたレジェンド・プレイヤー4人が集結したPoppin'4が東京とニューヨークでレコーディングしたセカンド・アルバム。

美しいメロディのオリジナル曲に加え、スティーヴィー・ワンダー、大野雄二、スタンリー・タレンティンのカバー曲も収録。

ポップで高品質、高度だが親しみやすい、大人による大人のための  
インストゥルメンタル・ミュージック。

ゲストとしてアンディ・スニツァー、ミノ・シネル等も参加。

<収録曲>

1. City Girl (Eriko Tsukayama)
2. Mr You (Eriko Tsukayama)
3. Midnight Whisper (Eriko Tsukayama)
4. Orange Sunshine (Eriko Tsukayama)
5. Tenderly (Walier Gross)
6. You Haven't Done Nothing (Stevie Wonder)
7. One Way Love (Eriko Tsukayama, Lyrics by Amie)
8. Solar Samba (Yuji Ohno)
9. Sugar (Stanley Turrentine)

Poppin'4

塚山エリコ (キーボード)

土方隆行 (ギター)

コモブチキイチロウ (ベース)

渡嘉敷祐一 (ドラム)



ゲスト

アンディ・スニツァー (テナー・サクソ : 2, 5, 7) 、ミノ・シネル (パーカッション : 1, 4, 5) 、アージー・ファイン (ヴォーカル : 7) 、グリニス “ヴォーン” マーティン (コーラス : 7) 、フランシス・シルヴァ (パーカッション : 8) 、ホーン・セクション、ストリングス・セクション

Produced by Eriko Tsukayama

Co-Produced by Yuichi Togashiki

Arranged by Eriko Tsukayama & Poppin'4

"Solar Samba" Arranged by Kiichiro Komobuchi

"You Haven't Done Nothing" Arranged by Yuichi Togashiki

Horns & Strings Arranged by Eriko Tsukayama

Recorded at Onkio Haus Studios, Ginza, Tokyo, Japan. 26, 27, & 28 Nov. / 21 & 28. Dec. 2021 / 10, Feb. 2022

Power Station Studios, Manhattan, New York, USA. 20 & 21. Jan. 2022

Poppin'4 オフィシャル・ホームページ : <http://poppin4.com/>

お問い合わせは

BRAVO RECORDS ・ 白柳龍一 (r.shirayanagi@gmail.com)

■作編曲家/キーボード奏者の塚山エリコを中心に、日本の音楽シーンを支え続けてきたレジェンド・ミュージシャンが集結したユニット“Poppin’4”のセカンド・アルバム。

■メンバーは、様々なアーティストへの楽曲提供、アレンジ、プロデュースや、ドラマ、映画、ミュージカル、CM、ゲームなど幅広い音楽制作を行なってきた塚山エリコ。1980年代に超絶先鋭音楽集団“マライア”で活躍し、その後はギタリストとして多くのアーティストをサポートする他、スピッツ、エレファントカシマシ、河村隆一、SMAPなどのサウンド・プロデュースも手がけてきた土方隆行。渡辺貞夫、渡辺香津美、玉置浩二、小野リサ、クリヤマコトなど様々なジャンルのアーティストたちをサポートしてきたコモブチキイチロウ。そして元“ザ・プレイヤーズ”のメンバーで、その後も膨大なアーティストたちのレコーディングやライブで活躍してきた渡嘉敷祐一。

■ゲスト・プレイヤーとして、ローリング・ストーンズやポール・サイモンなど数多くのトップ・アーティストのサポートを務めてきたサクソ奏者のアンディ・スニッツァー、マイルス・デイヴィス、ウェザー・リポート、スティンクなどと共演してきたパーカッション奏者のミノ・シネルというニューヨークのトップ・プレイヤーも参加。さらにニューヨークの腕利きのホーン・セクションと東京のストリング・セクションも参加し、よりゴージャスなサウンドに。

■東京とニューヨークでレコーディングを敢行。マスタリングには1stアルバム『Made In Manhattan』(2018年)に続いて、数々のアカデミー賞を受賞している世界的エンジニアRandy Merrillが参加。煌めきのサウンドは必聴。

■ヴァラエティ豊かなオリジナル曲に加え、スティーヴィー・ワンダーの「You Haven't Done Nothing」、大野雄二の「Solar Samba」、スタンリー・タレンタインの「Sugar」など、多彩なカバー曲も収録。

■「One Way Love」では、矢沢永吉、杏里、SMAPなど様々なアーティストのサポートを務めてきた実力派シンガー、アージー・ファインをフィーチャー。

■“大人のための、大人によるインストルメンタル”というコンセプトで、ポップで親しみやすいメロディと、名人たちの卓越したスキルによる演奏がタツプリーと楽しめます。聴きやすく、親しみやすく、耳にスーッと入ってくるが、実はものすごく緻密で難しいことをやっているという、まさに音楽職人たちの匠の技がキラリと光る極上の音楽。

■プログラミングやリモート録音が主流となっている現在の音楽シーンにあって、あえてスタジオでの生演奏にこだわった、音楽の職人たちによるレギュラー・ユニットだからこそ可能な、贅沢な音の会話が楽しめる作品です。

## <ライナーノーツ>

この『from TOKYO』は、作編曲家/キーボード奏者の塚山エリコ率いるユニット“Poppin’4”の2作目となるアルバムだ。

これまで様々なアーティストへの楽曲提供、アレンジ、プロデュースや、ドラマ、映画、ミュージカル、CM、ゲームなど幅広い音楽制作を行ってきた塚山エリコが、“大人のための、大人によるインストメンタル”というコンセプトでPoppin’4を結成したのが2015年。メンバーは、1980年代に超絶先鋭音楽集団“マライア”で活躍し、その後はギタリストとして多くのアーティストをサポートする他、スピッツ、エレファントカシマシ、河村隆一、SMAPなどのサウンド・プロデュースも手がけてきた土方隆行。渡辺貞夫、渡辺香津美、玉置浩二、小野リサ、クリヤマコトなど様々なジャンルのアーティストたちをサポートしてきたコモブチキイチロウ。そして元“ザ・プレイヤーズ”のメンバーで、その後も膨大なアーティストたちのレコーディングやライブで活躍してきた渡嘉敷祐一という、まさに日本の音楽シーンを長きにわたって支え続けてきたレジェンドたちだ。そしてPoppin’4は2017年にニューヨーク録音によるファースト・アルバム『Made In Manhattan』をリリースし、その後も地道なライブ活動を展開、そしてついにこのセカンド・アルバムを完成させた。

東京とニューヨークでレコーディングされたこの作品には、ゲストとしてアンディ・スニッツァーとミノ・シネルが参加しているのも注目だろう。アンディ・スニッツァーはソロ・アーティストとして活動している一方、ローリング・ストーンズやポール・サイモンなど数多くのトップ・アーティストのサポートも務めてきたサクソ奏者。彼は『Made In Manhattan』にも参加していた。ミノ・シネルはマイルス・デイヴィス、ウェザー・リポート、スティングなどと共演してきたパーカッション奏者で、ニューヨークのエンジニアAki Nishimuraに“小物楽器の使い方が上手い人を紹介して欲しい”と頼んだら、彼を紹介されたということだ。さらにニューヨークの腕利きのホーン・セクションと東京のストリング・セクションも参加して、Poppin’4サウンドをさらに豊かなものになっている。

「ある意味コンセプトは“何でもあり”です」と塚山エリコが語っているように、オリジナル曲やカバー曲などヴァリエティに富んだ楽曲が収録されており、Poppin’4の最大の特長であるポップで親しみやすいメロディと、名人たちの卓越したスキルによる演奏がタップリと楽しめる内容になっている。聴きやすく、親しみやすく、耳にスーッと入ってくるが、実はものすごく緻密で難しいことをやっているという、まさに音楽職人たちの匠の技がキラリと光る極上の音楽だ。リモートやデジタル操作で音楽制作することが常識化し、またホーンやストリングスなどもプログラムで作ることが普通になっている今の時代において、あえてすべて生演奏で、スタジオで一緒にレコーディングすることにこだわった彼らの姿勢と矜持と魂が、この音たちには込められている。だからこそ音楽がここまで生き生きとしているし、音がちゃんと“呼吸”している。ぜひこの作品を通じてその“生身”の音の素晴らしさと気持ち良さを感じて欲しいと思う。

## < 楽曲解説 >

### 1. City Girl

塚山エリコのオリジナルで、元々は野田ユカ(key)の1989年のアルバム『カリブの夢』に収録されていた。ミノのパーカッションとホーン・セクションも加わった、Poppin'4らしいポップで軽快なナンバーだ。オルガンによる親しみやすいテーマに続くギターとオルガンのソロもよく歌っている。後半の管楽器のソロはトニー・ケドレック(tp)、アーロン・ヘイク(as)、デイヴ・マン(ts)、マイク・デイヴィス(tb)、マイク・ロドリゲス(tp)の順。

### 2. Mr. You

いきなりアンディのエモーショナルなテナー・サクソから始まるこの曲は、1980年代後半に書かれたオリジナル。こういうミディアム・テンポでも決してモタらずにグルーブするリズム・セクションが素晴らしいし、アーロン・ヘイクのフルートもサウンドのいいアクセントになっている。さらにアンディのワイルドなソロ、土方隆行のソウルフルなソロもこの楽曲の大きな魅力になっている。

### 3. Midnight Whisper

この曲も『カリブの夢』に収録されていた塚山エリコのオリジナル。ファンキーなテイストもあるバラードで、ストリングスのサウンドが美しい。『カリブの夢』では土岐英史(as)がフィーチャーされていたが、今回はそのメロディを土方隆行が奏でることで、楽曲に新たな命を吹き込んでいる。彼の溢れる歌心が見事に発揮された名演だ。

### 4. Orange Sunshine

1982年に作曲されていたが、作品として発表されるのは今回が初めてだということだ。タイトルのイメージそのままの、明るくポップなリズムとメロディを持つ、いい意味で1970年代フュージョンの趣を感じさせる楽曲だ。パーカッション、ホーン、ストリングスも加わってサウンドをさらにゴージャスにしている。この曲の聴きどころは、エレクトリック・ピアノとストリングスのユニゾン・ソロだろう。これはクインシー・ジョーンズが「Tell Me A Bedtime Story」という曲でやっていたアプローチへのオマージュだということだ。それに続くギター・ソロもハツラツとしている。さらに曲の全編を通してミノのトライアングルのリズム感の素晴らしいこと!

### 5. Tenderly

1946年に書かれてサラ・ヴォーンとローズマリー・クルーニーがヒットさせ、その後多くのミュージシャンに取り上げられているスタンダード曲。ジャズではしっとりとしたバラードで演奏されることが多いが、ここではパーカッション、ホーン、ストリングスも加えてとてもゴージャスなフュージョンに変身させている。アンディのテナーがロマンティックに歌い上げ、アコースティック・ピアノ・ソロもとてもリリカルだ。

## 6. You Haven't Done Nothing

スティーヴィー・ワンダーの1974年のアルバム『Fulfillingness' First Finale』に収録されていた楽曲で、シングルとしても全米1位を記録した。当時のニクソン大統領を批判した楽曲で、日本では「悪夢」という邦題でも知られている。渡嘉敷祐一によるアレンジだが、こういったディープなファンク・ビートで、ここまで気持ちよくグルーブするPoppin'4のリズム感がすごい。いい塩梅でディストーションの利いたギターと、それにまわりつくようなオルガンも彼らならではだろう。変幻自在のドラム・ソロもかっこいいし、続くアコースティック・ピアノとギターのソロもエネルギッシュだ。

## 7. One Way Love

“片思い”をテーマに書かれたオリジナルで、アージー・ファインのヴォーカルがフィーチャーされる。彼女は日本在住で矢沢永吉、杏里、SMAPなどのコーラスも務めてきた実力派シンガー。塚山エリコが友人のライブを見に行ったときに、そのハートフルな歌声に魅了されていつか共演したいと思っていたという。ちなみにコーラスで参加しているグリニス・"ヴォーン"・マーティンは彼女の夫で、たまたま一緒にスタジオに来ていて参加することになったそうだ。デヴィッド・フォスターをチラリと思わせるアレンジも楽しい。アンディのテナーはまるで2人目のヴォーカルのように歌っているし、Poppin'4の4人もやっぱり歌伴がメチャクチャ上手い!

## 8. Solar Samba

「ルパン三世のテーマ」などで知られる作編曲家・大野雄二の1978年のソロ・アルバム『Space Kid』に収録されていた楽曲。アレンジはブラジル音楽への造詣が深いコモブチキイチロウが手がけており、彼の躍動的なベース・ラインがこの曲の“体幹”をしっかりと支えている。オルガンとギターの掛け合いやキメのリズムも楽しい。オルガン・ソロ、ギター・ソロ、そしてメンバーたちによるコーラスもノリノリだし、ブラジル出身で日本在住のフランシス・シルヴァのパーカッションも大活躍だ。

## 9. Sugar

ファンキーなソロで人気だったテナー・サクソ奏者スタンリー・タレンタインの1970年のヒット・アルバム『Sugar』のタイトル曲で、今なおファンキー・ジャズの人気曲として多くのファンに愛されている。4人によるほぼ1発録りで、Poppin'4の最もピュアな形が表現された演奏になっている。「Mr. You」同様、こういうミディアム・ファンクのリズムでグルーブするのはほんとうに難しいのだが、そういうことを全く感じさせない彼らの演奏者としてのスキルの高さと懐の深さは特筆ものだ。ギター、オルガン、ベースのソロもそれぞれの個性がよく出ている。

(文：熊谷美広)